

発熱について

2011 10.05 医療係

風邪の時に熱が出るのは、ウイルスなどの病原体に会った免疫細胞は、体を守る為に各種の生理活性物質を出します。このうちのいくつかが体温調節中枢の神経細胞に作用するので体温が上がるのです。これだと体温は上がりっぱなしになりそうだが、実際には、42℃を越える高熱が出ることはまずない。あまりに高い熱は体に有害ですから、免疫細胞は発熱を抑える物質も出します。

この病気は散発的に起こることもありますし、集団流行する場合があります。主として学童や生徒などの間に流行します。また、夏にプール内での感染により流行することがあり、プール熱とも呼ばれます。この場合は、特に結膜炎による目の症状が重く、目の充血がみられます。

体温：35.5～36.5℃

平熱：通常 37℃以下

微熱：38℃以下の発熱

37.5℃：厚生労働省が発熱の基準としている体温。

解熱鎮痛剤：アスピリンとアセトアミノフェンが、今、一般用解熱鎮痛剤として最もよく使われる

※1回に1000mgを服用したときの鎮痛効果は、アスピリンで75.7%、アセトアミノフェンでは71.2%だった。

病型と症状

普通感冒[ふつうかんぼう]

かぜ症候群の中で、もっとも軽いもので、2～3日で治癒。ウイルスにより、おかされるのは上気道(鼻、のど)で、鼻水が多くなったり、鼻詰まりが起きたり、のどが痛くなったり、微熱が出たりする程度

ウイルス性咽頭炎[ウィルスせいいんとうえん]

のど(咽頭)を中心の炎症。のどに違和感、発赤、首のリンパ節の腫れ。時には皮膚に発疹がみられる。38℃程度の熱が出て、頭痛がし、からだがだるく、食欲もないなど全身的な症状が出る場合もあるが、3～5日で治癒。

発熱に伴う症状

●身体がガタガタ震える。筋肉が硬直する

→悪寒戦慄。細菌・ウイルス感染症。重症の場合もある。

●頭痛

→髄膜炎、脳炎など。急激に悪化する場合があるため、頭痛が激しければすぐ病院へ。こめかみの後ろの動脈痛がある場合、要注意。

●胸痛(せきによる胸膜部に痛み)

→胸膜炎・心外膜炎、肺炎による胸膜の炎症、流行性胸膜痛など。息苦しい、ひどく疲れるなどの症状がある場合は病院へ。

●腹痛

→下痢、吐き気・嘔吐を伴う：急性胃腸炎。下腹部の痛み(下痢がない)：急性胃腸炎、急性虫垂炎、子

発熱について

2011 10.05 医療係

宮付属器炎、骨盤腔炎、膀胱炎を伴う腎盂腎炎

●その他

発熱により腰、背中、関節が痛む場合があるが特に問題はない

対処

・風邪で体がだれる理由・・・免疫系が脳に働きかけるから。発熱や食欲不振、眠気に襲われると、生き物の活動量は健康なときより減ります。病原体と戦いやすい環境を整えたいとも目的から、免疫系は脳に働きかけて体を安静な状態に働きかける

- ・カゼをひいた場合の三原則は「安静・栄養・保温」
- ・安静(保温)+水分補給。

留意点

1 熱が上がりきったら解熱

2 発熱は身体を消耗させるもの。頭だけではなく、腋の下や首筋など動脈が通っている所を冷やすと効果的。また、熱が下がる時は汗をかくので、汗が冷えて熱がぶり返さないようにこまめに汗を拭いたり着替えたりすることも大切。

3 弱った胃腸のために、消化の良い食事。できれば栄養価の高いものを摂取。また、発熱でビタミンCが失われるのでしっかり補給。

★オーエスワンゼリー★

電解質と糖質の配合バランスを考慮した経口補水液です。軽度から中等度の脱水状態の方の水・電解質を補給・維持するのに適した病者用食品らしい(大塚製薬から)

・厚生労働省許可個別評価型病者用食品

○学童～成人は 500～1000mL/日



発熱について

2011 10.05 医療係

解熱剤について

*剤形は、基本的には、「粉・カプセル>>錠剤」で溶解易い（効果が早い）。

●アスピリン

中枢・末梢でのプロスタグランジン合成阻害作用が強く、発熱・痛み・炎症を鎮める効果が高い

注意点：胃腸障害の副作用があるので、胃が弱いと使えない

●アセトアミノフェン

アスピリンに比べて末梢でのプロスタグランジン合成阻害作用が弱く、抗炎症作用はほとんどない。

注意点：副作用が比較的少ないため、小児にも用いられる。

代謝産物の一部は強い肝毒性を持ち、重篤な肝機能障害を引き起こすことが知られている。

アルコール常飲者では、代謝が亢進されて肝機能障害のリスクが高まる。

●イブプロフェン

末梢でのプロスタグランジン合成阻害作用が強く、ノドの痛みや関節痛などの炎症を伴う風邪や月経痛に効果を発揮します。解熱・鎮痛・抗炎症作用はアスピリンの10倍以上。元は医師の処方箋だった。

●イソプロピルアンチピリン

一般用医薬品で唯一使用されているピリン系解熱鎮痛成分。

他のピリン系解熱鎮痛成分はショックなど重篤な副作用が頻発したため使用されなくなりました。

成分名	アセチル サリチル酸 (アスピリン)	アセト アミノフェン	イソプロピル アンチピリン	イブプロフェン	エテンザミド
鎮痛作用 (痛みを抑える作用)	○	○	○	◎	○
解熱作用 (熱を下げる作用)	○	○	○	◎	○
消炎作用 (炎症を抑える作用)	○	×	○	○	△
抗リウマチ効果 (リウマチに効く作用)	○	×	○	○	○

発熱について

2011 10.05 医療係

解熱鎮痛薬は3種類ある

●非ピリン系(アセトアミノフェン—肝臓へのダメージ)

中枢神経系に作用し、痛みをはずめたり、熱を下げたりする作用がある。

●ピリン系(イソプロピルアンチピリン—ピリンアレルギー)

痛みをはずめたり、熱を下げたりする作用がある。炎症を抑える作用もあるが、弱い。効きめも強く作用時間も長いのですが"ピリン疹"といわれる副作用有。

●非ステロイド系(イブプロフェン、アスピリン—胃腸にダメージ)

炎症を抑える作用をもつ。痛みをはずめたり、熱を下げたり、熱やノドの痛みをともなうカゼにも使う。筋肉痛や関節炎による炎症を抑えるのによく効くが胃の調子を壊す副作用がある

名前	解熱成分	おすすめ度
エザックエース(ライフィックス)	イソプロピルアンチピリン アセトアミノフェン	☆☆☆☆☆ 解熱鎮痛成分のイソプロピルアンチピリンをはじめ、効き目抜群！熱が高いときのかぜにはこれだ！ピリン系配合。30錠¥1500
エスタックか粒(エスエス製薬)	アセトアミノフェン サリチルアミド 葛根湯(ケイヒ・マオウ)	
	2種類の解熱成分のほか、「葛根湯加桔梗」エキスを配合している ので、高熱時以外にも悪寒やのどの痛みなどのかぜの諸症状に すぐれた効果あり。ピリン系は配合されていません。	☆☆☆☆
アルペンゴールドカプセル(エスエス)	イソプロピルアンチピリン アセトアミノフェン	☆☆☆☆ 2種類の解熱成分と3種類の鎮咳成分。 熱が高く、せきを抑えたい方におすすめです。ピリン系配合。ピ リン系配合。ピリン系配合。
プレコール持続性カプセル	イソプロピルアンチピリン	
		☆☆☆

発熱について

2011 10.05 医療係

	アセトアミノフェン	
新エスタック 12 「せき」	アセトアミノフェン サリチルアミド	
新エスタック w 「せき」	アセトアミノフェン サリチルアミド	
ユア cs 「のど・鼻」	アスピリン アセトアミノフェン	
2種類の解熱成分によりすばやく熱を下げます。 プレコール持続性カプセルのみピリン系配合。		
コンタック総合感冒薬	アセトアミノフェン エテンザミド	☆☆☆
新プレコール錠		
パイロンα		
アセトアミノフェンとエテンザミドで胃腸にやさしくできています。 ピリン系は配合されていません。		

医療箱の常備薬について

- バファリン・・・頭痛 生理痛 歯 悪寒や発熱時にも服用
解熱という面ではその効果がわからなかったが、みんなが知っているポピュラーな薬
- ルル・・・家族向けの安価で安全とされる薬。適用範囲も広いが効果は薄い。効き目をもとめることはできないらしい